

J A大分厚生連の取組

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



J A大分厚生連は持続可能な社会の実現を目指します。





J A大分厚生連のSDGsへの取り組み



【持続可能な開発目標SDGsとは】

持続可能な開発目標SDGsは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。17のゴール、169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

J A大分厚生連もSDGs達成に向け積極的に取り組んでいきます。

【J A大分厚生連としてのSDGsの取り組み】

J A大分厚生連では、保健、医療、福祉事業に加え、人材育成、職場環境づくり、環境、資源対策等に力を入れ、取り組んでまいります。

目標1：貧困をなくそう

目標2：飢餓をゼロに

目標3：すべての人に健康と福祉を

目標4：質の高い教育をみんなに

目標5：ジェンダー平等を実現しよう

目標6：安全な水とトイレを世界中に

目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに

目標8：働きがいも経済成長も

目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう

目標10：人や国の不平等をなくそう

目標11：住み続けられるまちづくりを

目標12：つくる責任 つかう責任

目標13：気候変動に具体的な対策を

目標14：海の豊かさを守ろう

目標15：陸の豊かさを守ろう

目標16：平和と公正をすべての人に

目標17：パートナーシップで目標を達成しよう



1. 健康増進活動の展開



県下JAや自治体、企業と積極的に連携し、施設健診では特定健診を始め、各種人間ドックやがん検診を行っています。巡回検診では超音波検査やマンモグラフィーによる乳がん検査を中心に県内のほぼ全域で行っております。また、利用者のニーズに合った健康診断を行えるよう定期的にコースの検査項目やオプション検査項目の見直しを行うなど、地域密着型の健康増進活動を展開しています。

さらに毎年、各自治体や企業の健康診断担当者それぞれに連携強化、情報交換を目的とした連絡会議を開催するなど、特定健診や特定保健指導をはじめとする保健事業への理解を深めていただくとともに、健康診断による早期発見の重要性を再確認していただき、健診受診率の向上へ取り組んでいます。

市町村健診担当者・保健師連絡会議



内視鏡室待合室



巡回検診の様子



巡回車両のマンモグラフィー装置

J A大分厚生連の取組

2. 健康教室等の開催・健康増進情報の提供



健康教育の一環として、職員を県下に派遣し、住民や各団体、企業の職員を対象に各種健康教室や健康相談、衛生講話等を行っています。

また、病院主催で定期的に市民公開講座や各種健康教室も行っております。

各施設で機関誌を定期的に発行し、健康特集や各施設の様々な情報を発信するだけでなく、J Aの広報誌へも特集記事を掲載し、様々な面から健康増進情報の提供を行っています。

健康増進セミナー



市民公開講座

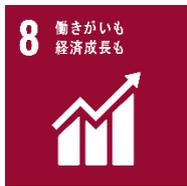


厚生連の情報誌及び特集記事掲載中のJ A広報誌



J A大分厚生連の取組

3. 働きやすい職場環境



J A大分厚生連では、働きやすい職場の環境づくりのため、以下の活動を行っております。

- ・女性医師支援/ファミリーサポート制度の導入
- ・多職種へのタスクシフト/シェアの推進による医師業務の負担軽減
- ・施設内保育園の整備
- ・ハラスメント防止策の徹底
- ・年次有給休暇の取得率向上
- ・職員満足度調査の実施

ひよこ保育園



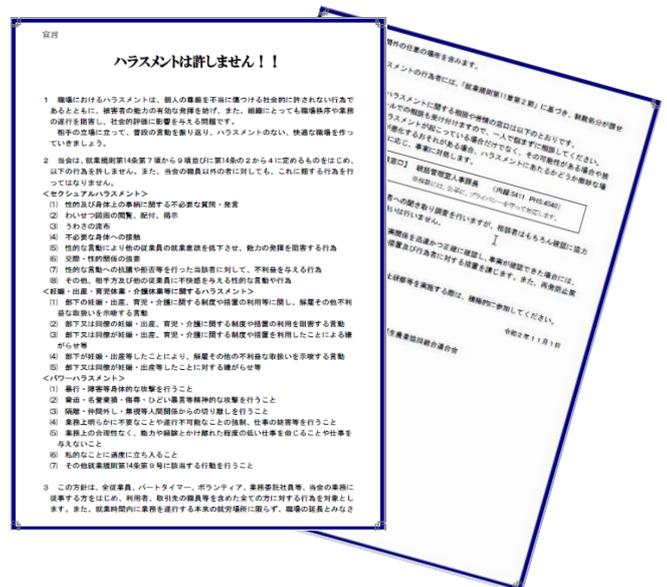
職員満足度調査



タスクシフト

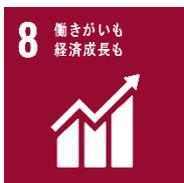


ハラスメント防止策



J A大分厚生連の取組

4. 公的医療機関としての使命



大分県厚生連鶴見病院は、東部医療圏の医療を担う地域の中核病院としてその使命を果たします。地域の救急病院および高度がん治療病院として、救急患者の積極的受け入れや高性能医療機器の整備を行い、J A組合員や地域住民の健康を守ります。

さらには、感染症指定医療機関として新型コロナウイルス感染症重点医療機関に指定され、入院治療を行うほか、受入体制を整備すべく発熱外来など施設整備を行いました。また、感染拡大防止対策を徹底的に行い、急性期医療提供体制の維持に努めて参ります。

内視鏡検査



血管内治療



心臓カテーテル治療



手術室



J A大分厚生連の取組

5. 地域に根差した福祉サービスの展開



介護老人保健施設シエモア鶴見では、その名前（“シエモア” フランス語で「我が家」）の通り、「我が家」と同じように暮らし、看護や介護、医療ケアを通して、同様の生活の質をなるべく保っていけるように利用者を支えています。

また、看護、医学的管理の下での介護や機能訓練、その他必要な医療とサービスを提供することで、利用者の能力に応じた日常生活を営むことができるようにし、1日でも早く家庭での生活に戻ることができるように支援することを目的としています。

介護老人保健施設シエモア鶴見



レクリエーションの様子



J A大分厚生連の取組

6. 人材育成



生活に不可欠な「エッセンシャルワーカー」としての役割を果たす公的医療機関のスタッフとして、キャリアアップや資格取得などを学び続けられる環境作りに取り組んでいます。

また、シニアや障害者、ひとり親の雇用や専門職の育成にも力を注いで、未来を担う人材の育成を積極的に行って参ります。

- ・従業員研修制度の充実
- ・教育実習生の受入
- ・資格取得や学会への参加費補助

看護体験実習



近隣中学生による介護施設訪問学習



看護技術研修



B L S 研修



※B L S (Basic Life Support)

心肺停止または呼吸停止に対する一時救命措置

J A大分厚生連の取組

7. 環境・資源対策



地球温暖化問題、エネルギー問題など、先進国であるからこそ積極的に取り組む課題があります。私達は、たくさんの取り組みにより大きな成果へ繋がる活動を実施しています。

- ・屋上緑化
- ・太陽光発電設備
- ・各施設の照明設備のLED化
- ・液晶モニターのバックライトLED化やパソコンの記憶装置のSSD化
- ・デマンド導入や各会議、委員会等で定期的に報告することによる各施設の節電の徹底
- ・クールビズの導入によるエアコン温度の抑制
- ・人感センサー導入による使用が少ない部分の消灯
- ・地下水活用システムの利用による加冷熱エネルギーの節減

屋上庭園



太陽光発電システム



8. 災害時における水リスク対策

11 住み続けられる
まちづくりを



大分県厚生連では、地下水活用システムを導入しています。水源の二重化を行うことにより、大規模災害等により市水が断水となった場合でも給水ライフラインの確保を行うことが可能で、治療の水や厚生連施設の非常用の生活用水への使用だけでなく、近隣住民の方の貴重な水源として利用することも可能です。

地下水活用システム

